

高知南国道路高須地区景観検討について

建設省四国地方建設局 土佐国道工事事務所 正員 ○東條 眞吾
同 上 正員 中澤 晃一
同 上 北川 森康

1. はじめに

近年の道路整備においては、利用者のみならず沿道周辺の視点からも景観に優れ、多様なニーズに応えるべく質の高い整備を図ることが要求されている。このことに配慮して本検討では、高架構造の高知南国道路と併走する五台山道路（県道）の構造物および周辺環境が一体となった美しい空間を創造するための景観整備計画を立案する。

2. 対象区間とゾーニング

対象区間は、高知南国道路整備区間のうち、高知中央IC～五台山トンネルまでの約 1.6kmである。ゾーニングは写真-1のような5分割とし、このうち本検討で扱うのはゾーン3・4・5である。

3. テーマ・コンセプト

現地周辺状況などより景観整備におけるコンセプトを策定し、それに基づいたデザイン方針を以下に示す。

■コンセプト

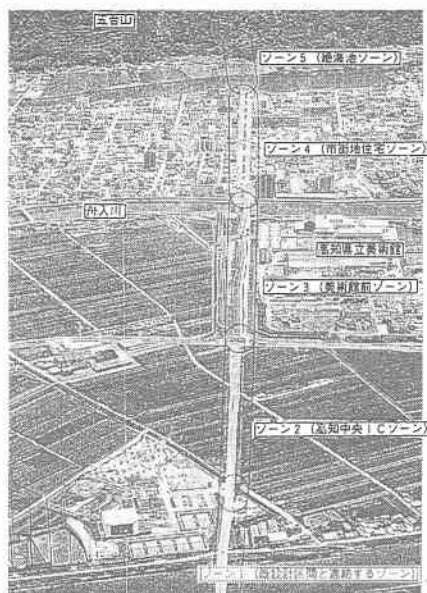


写真-1 対象区間ゾーニング

「はばたきの道」

— 浪漫と改革の地、高知から先駆けて発達する次世代の環境と暮らしを踏まえた道路空間の創造 —

■ デザインテーマ

「海・緑・青空
—高知らしさ—

コントラストを活かした
デザイン

シルエットの効果が出る橋脚のフォルムと素材、色彩など強い日差しによるコントラストを活かすデザインを基本にしていく。

「維新の夢」

土佐人の個性が息づく
みちづくり

龍馬をはじめ、土佐の歴史を創った先人の心、ロマンを受け継ぐものとして考え方に活かしていく。
飛躍、ダイナミックさ、個性を感じるデザイン。

「人にやさしい空間」

やさしさを感じる
広い空間の創出

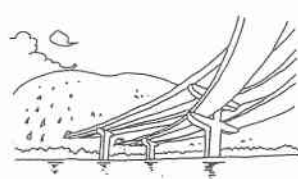
空と海・川・五台山といった自然景観を活かし、南国らしいのびやかな空間を創造。
積極的なエコロード思想を取り入れて、次世代へ受け継がれていく空間。

■ 方針

将来の土地利用を予測したうえで新しい景観を導き、周囲の風景と馴染み、住民が親しめる道づくりを行う。また、水陸性にも配慮する。

連続高架となる区間はリズムカルなイメージを心掛ける。

五台山、絶海池など自然要素の強い部分では、高架橋の構造（スパン割断等）は、より風景に溶け込み、環境に優しい形式を採用する。



4. 景観検討

整備コンセプト、デザイン方針およびゾーンごとの構造物をふまえ、高架橋構造フォルムの選定を行う。

(1) ゾーン3（美術館前ゾーン）の検討

本ゾーンのデザイン方針は、美術館の建物や田園風景との調和を図ること、偏心構造を活かした形状とすること、リズムカルですっきりとしたシルエットを造ることなどであり、写真-2はその推奨案である。上部工には周辺環境との調和を図るため3径間連続PC箱桁橋を採用し、下部工は桁下空間が広くシンプルなラーメン構造、コンクリートの素材感を活かした円形橋脚を採用している。また、田園や美術館、背景の五台山との調和に配慮し、高架橋の色彩は無彩色を基調としている。

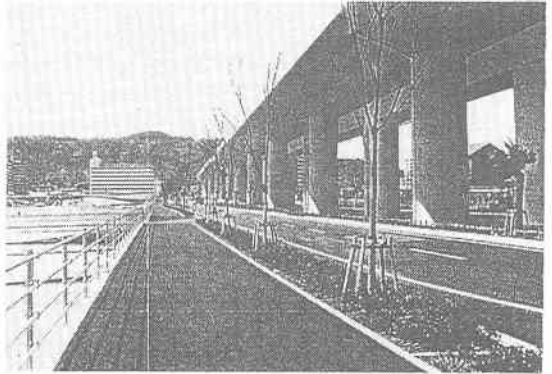


写真-2 ゾーン3推奨案

(2) ゾーン4（市街地住宅ゾーン）の検討

本ゾーンのデザイン方針としては、桁下空間をより広く見せる構造とすること、市道との交差点部に橋脚を設けないこと、ゾーン3と同様にリズムカルですっきりとしたシルエットを造ることなどがあげられる。写真-3の推奨案をみると、上部工には桁側面の連続性や市街地との調和を考慮して3径間連続鋼床版箱桁橋を採用し、下部工には鋼構造のシャープさを引き立てる矩形橋脚を採用している。また、広い桁下空間を確保するためラーメン構造とし、シンプルな街路空間を演出している。

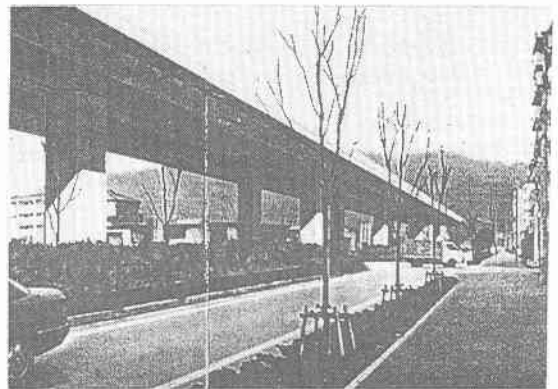


写真-3 ゾーン4推奨案

(3) ゾーン5（絶海池ゾーン）の検討

この地区は上層の高知南国道路と下層の五台山道路の4本の高架橋が交錯するため、外部景観・内部景観とも煩雑感を極力和らげるよう注意する必要がある。また、曲線橋としての素質を活かし、上層と下層でバランスのとれたシルエットを造ることも重要である。上層道路については下層との交差点においてコントロール支間を設定し、これに応じて上下線の互いの橋脚位置を揃えるなどの工夫が必要となる。また、門型橋脚を使用しない偏心構造を採用すれば、内部景観も開放的である。これらのことを背景の五台山に一体化させると、本ゾーンの推奨案は写真-4のようになる。

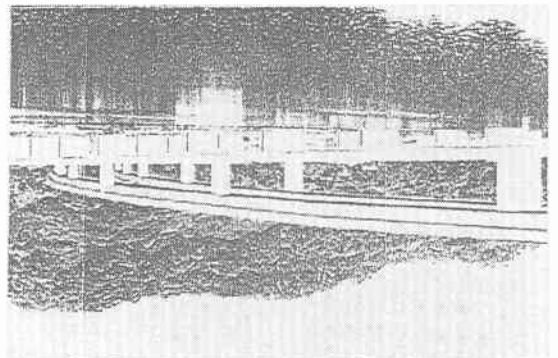


写真-4 ゾーン5推奨案

5. おわりに

以上のことより、本検討で立案された景観整備計画は、いずれも整備テーマ・コンセプトにそうものである。さらに詳細について検討していく上で、地元との協議や耐震を考慮した新基準を基に、バラエティ豊かな周辺環境を総合的にとらえた景観整備計画を再検討することは、今後の課題といえよう。